

くにびき通信

2024年 4月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

ごあいさつ

はじめまして

この4月に大田市役所温泉津支所から人事異動によりセンター長として参りました藤原陽一（ふじはらよういち）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、4月7日の日曜日、晴天のもと学園生たちみんなを待っていたかのように桜が満開のなか、たくさんの地域の方や来賓の方をお招きして「入園のつどい」を開催することができました。

北海道から九州まで全国各地から集まった小・中学生13名の学園生は、三瓶こだま学園21期生として山村留学生生活をスタートしました。13名のうち5名は昨年度からの継続生で、8名は初めての山村留学生生活です。5名の継続生は新入園生の8名を引っ張って活動し、みんなで元気に明るく楽しい学園生活をつくってほしいと思います。

また、20日の土曜日には農家対面式を行い、ホームステイ先の5軒の農家宅で2～4名の学園生が農家生活に入りました。農家では、そのお宅の子どもとして生活します。1回の農家生活では、およそ10日前後を過ごし、1年を通して農家とセンターで交互に生活します。「家や農業のお手伝い頑張りたい」と学園生は抱負を語ってくれました。

来年の3月に巣立っていくときには、学園生たちに「充実した山村留学生活だった」と言ってもらえるようセンター一丸となって、学園生たちを精一杯支えてまいります。

そのためにも、受入農家をはじめ、北三瓶小・中学校の先生方、地域の方々のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。温かく見守っていただき、時にご指導いただければ幸いです。

今年度もどうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

センター長 藤原 陽一



今回の活動カレンダー

日にち	活動内容
4月7日(日)晴	入園のつどい
4月13日(土)晴	じゃがいも種芋植え、種もみまき
4月14日(日)晴	田起こし
4月20日(土)曇	農家対面式

活動報告

入園のつどい 4/7 (日) 晴



センターの周辺が桜やレンギョウで咲き誇る中、令和6年度入園のつどいが行われました。副市長をはじめとする地域の方々や受入農家さんが待つ中、学園生がクロモジの枝を持って保護者と一緒に入場しました。学園生の自己紹介や今年の目標を発表したり、来賓の方々からお祝いの言葉を頂いたり、四季の紹介があったりしました。最後は学園生の代表の子が学園生の心構えを発表し全員で約束しました。全部が終わると、今年はお客様の自己紹介が

ありました。子ども達は、たくさんの方々に見守られ、応援していただきながら、この自然豊かな三瓶で1年間を過ごします。3月の修園ではどんな成長が見られるか楽しみです。



じゃがいも種芋植え 4/13 (土) AM 晴

21期生初めての活動はジャガイモの種芋植えをしました。受入れ農家の矢田の父さんを講師に迎え、種芋の植え方を教えてもらいながら、2人1組でペアを組み作業を行いました。作業は、継続生を中心に手際よく進められ、約1時間半ほどで終わることが出来ました。今年は、北海道出身の学園生の保護者さんから頂いた5種類の種芋（メイクイーン、キタアカリ、トウヤ、サッシー、インカのひとみ）を植えたので、それぞれどんな芋が出来るのか今から楽しみです。



種籾まき 4/13 (土) PM 晴

午後は、センターで育てる稲の種籾を撒きました。午後も矢田の父さんにご指導いただき、20箱の苗箱に均等に種籾を撒きました。午前同様2人1組で作業を行いました。苗箱に土を入れ、均等に種籾を撒き、たっぷりの水と、種籾が隠れるくらいの土をかけて作業は完了です。種籾を均等に蒔くのが難しいのですが、父さんの撒き方手の振り方をよく見てそれに倣います。すべて終わると、父さんの家へみんな移動して育苗機に入れてもらいました。この後は、矢田家のハウスの中で大きくしてもらいます。



田起こし 4/14 (日) AM 晴

センターでは、学校の田んぼと徳原地区にあるセンターの田んぼの2つでお米を作っています。この日は、センターとPTAの共催活動として、学校の田んぼの田起こしをしました。

地元の子も3名、PTAの方も1名参加してくださり、いつもよりは
大勢で作業をすることが出来ました。受入農家でもある大國さんにご指導
いただき、堆肥を撒いて、鍬を使って田起こしをしました。みんなで
1列になって田起こしをしましたが、新入園生は初めて鍬を使って起
こす子も多く、上手く起こせずなかなか前へ進めません。そんな中、継続
生が頑張っ
て新入園生の分も頑張ります。途中でセンター長から頂いた



ジュースやお菓子を食べた

りして休憩をとり、約3時

間ほどみんなで鍬を振りました。田んぼの半分よりも多く終わ
った頃、いよいよトラクターの登場です。みんなもトラクター
の運転も体験させていただき、あっという間に全体を起こすこ
とができました。最後子ども達から、「みんなでやるから頑張
ろうと思った」「手でやると大変でいかにトラクターがすご
いかが分かった」「昔の体験と今の体験ができて良かった」な
どの感想がありました。大変な作業も皆で協力することで、頑張
ってやりきることができました。

農家対面式 4/20 (土) PM 曇

20日(土)午後、今年度の農家対面式を行いました。5軒の
農家さん宅に2~4人を受け入れていただきます。数日前から
そわそわしながら、どこの農家に入るのか気になっている学園
生。農家入りの荷物をまとめ、センターの掃除を終えて農家対
面式を待ちます。対面式では、センター長や農家代表の矢田の
父さんの話につき、学園生代表が「農家での活動や食文化が楽
しみです。いけないことがあったら叱ってください」と挨拶を



しました。その後、

それぞれの農家さんの紹介、子ども達の紹介と進み、いよいよ農家の発表です。順番に名前が呼ばれ学園生は農家さんの前へ行き握手をして挨拶をします。終了後はみんなで記念撮影をし、それぞれ荷物を車に積んで農家へ出発しました。1年間お世話になる農家です。四季を通してセンターでは出来ない色々な体験をさせていただきます。1年間よろしくお願
いします。

＼ニホンミツバチが帰ってきました？／

わたしはひそかにこれだけは誇れると思っている特技があります。それはニホンミツバチ（以下「ミツバチ」と書きます）の羽音をどんなに小さくても聞き取り、他の虫の羽音があったとしても聞き分けることができることです。この特技をいつ身に着けたかはわかりませんが、突き詰めるとミツバチを愛してやまない1点だと思っています。物心ついてから昆虫とカエルとヤモリが大好きで中でもハチとクモは今でも時間が許す限り眺めています。よく変わっていますね、という一因がここに 있습니다。さて、ミツバチは毛に覆われた黄色地に黒の横じまの胴体、大きな黒い目、花の蜜を吸うために花から花へとせわしなく飛び回るすがた、絶対勝てないはずの獰猛なスズメバチに立ち向かう勇敢さなど、目に入れてもいたくない理由はいくつ挙げてもキリがないです。何度か刺されるという痛い目に合えば、刺激しない方法を会得し手のひらに載せても刺されません（真似をしないでください）。ところが、わたしが知っている限り、5年前の秋口からその姿を北三瓶の地から突然見かけなくなりました。軌を一にして、わたしが住んでいる町はもとより全市的にミツバチを見かけなくなった、逃げたという話しが出たと記憶しています。今回の話題は、そのミツバチが近年少しづつ帰ってきているのではという考察です。この4月8日、多根地区にお住いの元・受入農家のKさんから「ミツバチが偵察に来ているから、放課後にも学園生のSSくんを連れて見に来たら」という電話がありました。この電話の内容には伏線があります。2年前、19期生だった中1生SSくんと中3生SYくんがくだんの受入農家Kさん宅に農家入りしました。1年間、稲作やイノシシ侵入防止装置の設置をはじめたくさんの活動をさせていただいたお礼にと、中学校を卒業するSYくんが昨年3月に自作のミツバチの巣箱をKさんへプレゼントしました。一月後の4月初め、Kさんから「家の周りにミツバチが乱舞しているのでSYくんからもらった巣箱を設置してみるわ」と電話があり、あれよあれよといううちに4月11日、その巣箱にミツバチが入ったと電話があったので帰宅途中にKさん宅に寄り見学しました。わたしも5年ぶりにミツバチを見たので感激したと同時に「奇跡」だと思いました。というのも、多根地区をはじめ北三瓶全域でミツバチに関心をお持ちの方がおられて、ずいぶん前からウチにもミツバチがやって来ないかなと気をもんでいる方がいらっしゃることを知っていたからです。奇跡はまだ続きます。Kさんに今年の春先に出会った際に、「スムシなどの影響か巣箱にミツバチがいなくなった」という話しが出ました。が、先日4月8日、1年前と同じように偵察隊のミツバチが巣箱周りをうろちょろしていると電話がありました。奇跡はまだ続きます。なんと、わたしの自宅の庭にあるハナズオウの花にミツバチがやってきていましたし、センターでも隣接する牧草地に咲いている菜の花にミツバチがいました。いずれも個体数が少ないことが少し気にはなりますが、いずれにしても「近くにミツバチがいる」ことはまちがいないです。ミツバチは社会性昆虫と呼ばれているように役割分担や集団生活、情報交換をします。そういった昆虫が自分の日常生活のとなりにいるだけで自分も自然のなかの一部だと感じることが出来ます。「帰ってきた」という言い方が適切なような気がしてなりません。わたしの自宅は昔からの農家用住宅なのでミツバチの気が向けば宅内の床下や屋根裏に巣をつくることがありました。帰りました、と言わないまでもミツバチと一緒にいる生活が復活できればとひそかに願っています。

筍掘ったよ！



見て！へび！



「くにびき通信」2024年4月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL:0854-86-0700 FAX:0854-86-0701 Email:o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市山村留学センター
公式ホームページ



くにびき通信
カラー版